

ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ“レジェンズ”

選手プロフィール

ジョー・ブロッキングトン (Joe Brockington)

ポジション: ラインバッカー (LB)

在学期間: 2004-2007

ノートルダムでの最初の 2 年はスペシャルチームとして活躍し、その後タックラーとして花開き、最後の 21 試合ではチーム 1 位のタックル数を記録している。在学中にマークした合計 179 タックルの内、実に 166 タックルはその 21 試合で決めたものである。

ブロッキングトンは出場した 47 試合中 20 試合でスターターを務め、12 のロスタックル、2 サック、1 ファンブルリカバー、2 つのパスカットで貢献。2003 年のインサイトボウル、2005 年のフィエスタボウル、LSU と対戦した 2006 年のシュガーボウルに出場している。キャリア最高の試合は、15 タックルを決めた 2006 年の空軍士官学校戦である。

2008 年にはバッファロー・ビルズとドラフト外で契約を交わし、ミニキャンプに参加した。

ジェフ・パリス (Jeff Burris)

ポジション: ディフェンスバック (DB)

在学期間: 1990-1993

サウスカロライナ州ロックヒル出身のパリスは、“ホルツ・エラ”の 1990 年から 1993 年までノートルダム大学でプレーした。

4 年生の 1993 年には 3 人のキャプテンの 1 人として、チームを 11 勝 1 敗のシーズンへと導き、大学での最終戦をテキサス農工大とのコットンボウルを制して飾った。その年、パリスはモノグラムクラブにより、チーム MVP に選出されている。

1994 年の NFL ドラフト第 1 巡指名でバッファロー・ビルズに入団後、1997 年までコーナーバック、パントリターナーとして活躍。キャリア 100 回のパントリターンはチーム記録となっている。また、2008 シーズンにロスコー・パリッシュに破られるまで、キャリアでのパントリターン獲得距離 (1,045 ヤード) でもチーム記録を保持していた。

現在はインディアナ州のフィッシャーズ高校で、DB コーチを務めている。

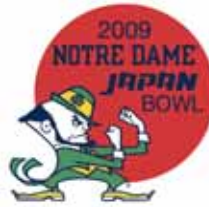
ディーク・クーパー (Deke Cooper)

ポジション: フリーセーフティー (FS)

在学期間: 1996-1999

ボウルゲームを含む 47 試合に連続出場し、1999 年にはザ・スポーティング・ニュース誌より全米 8 位のフリーセーフティーにランクされた。最終シーズン終了後は、ブルーグレイ・クラシック・ゲームでプレーした。2000 年にはドラフト外で NFL アリゾナ・カーディナルスと契約。2002 年にはカロライナ・パンサーズと契約し、初めてプレー機会を与えられる。2003 年から 2005 年はジャクソンビル・ジャガーズで 154 タックル、3 インターセプトを記録。2006 年をサンフランシスコ 49ers でプレーすると、2007 年に再びカロライナに戻り、59 タックル、3 インターセプトと活躍した。2008 年にはアトランタ・ファルコンズと契約している。クーパーは 2002 年に NFL ヨーロッパのライン・ファイアーでプレーし、リーグのディフェンス MVP に輝いている。

インディアナ州エバンスビルのノース高校出身で、高校時代はインディアナ州のプレーオフに進んでいる。



アンソニー・デンマン (Anthony Denman)

ポジション: ラインバッカー (LB)

在学期間: 1997-2000

1997年から2000年までノートルダム大に在籍。1999年と2000年に、毎春恒例のオフェンスとディフェンスによるスクリメージであるブルー - ゴールドゲームで、ディフェンス MVP に選ばれた。4年となりチームキャプテンを務めた2000年には、84 タックル、55 のソロタックル、14 のロスタックル、2つのファンブル誘発(同率)と、複数のカテゴリーでチームトップの記録を残し、チーム MVP も受賞。複数のオールスター戦にも出場した。さらに、フットボール・ニュース誌より独立校のプレーヤー・オブ・ザ・イヤーに、AP 通信が選出するオールアメリカンでは第2チームに選出された。

テキサス州のラスク高校ではチームのスター選手として、ポストシーズンのラッシング記録を樹立した。

デンマンは2001年にクリーブランド・ブラウンズと契約。2002年はバッファロー・ビルズと1年契約を結んだ。

オートリー・デンソン (Autry Denson)

ポジション: テイルバック (TB)

在学期間: 1995-1998

ノートルダム大学のラッシング記録 4,813 ヤードの保持者。3シーズン連続での1,000 ヤードラッシュを達成した1998年、11月14日の対海軍士官学校戦において、107 ヤードを獲得してアレン・ピンケットの4,131 ヤードの歴代記録を更新した。

在学中に100 ヤード以上を獲得した試合は合計22回で、ピンケットの21回のチーム記録を更新した。タッチダウンは43回、オールパーパスでの獲得距離は5,327 ヤードで、これもピンケットの5,259 ヤードの記録を上回っている。また、デンソンは2年連続で、オールアメリカンの第2チームにも選ばれている。

卒業後は、1999年のNFLドラフトでタンパベイ・バッカニアーズに第7巡指名で入団。マイアミ・ドルフィンズ、シカゴ・ベアーズ、インディアナポリス・コルツで通算5年のNFL経験がある。NFLヨーロッパのライオン・ファイアー、およびCFLのモントレアル・アロエッツでも活躍した。

現在はフィナンシャル・アドバイザーとして主にプロのスポーツ選手を顧客に持つ。

クリス・フローム (Chris Frome)

ポジション: ディフェンスエンド (DE)

在学期間: 2002-2006

2002年から2006年までディフェンスエンドで活躍。全米大学スポーツインフォメーションディレクター協会による地区学業優秀選手選抜に、2年連続(2005年と2006年)で選出された。最終学年は10試合でスターターとなり、シュガーボウルではLSUを相手に2つのタックルを決めている。キャリア成績は45タックル、1.5サック、8パスカット。

カリフォルニア州のハート高校では、ロサンゼルス・タイムズ紙より州のオールスターにディフェンスエンドとして選出された。シカゴ・サンタイムズ紙には全米トップ91番目の選手にランクされた。2007年にシカゴ・ベアーズとドラフト外で契約を結んだ。

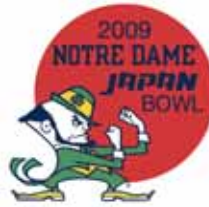
ブライン・マツ (Brian Mattes)

ポジション: オフェンスライン (OL)

在学期間: 2002-2006

2002年のノートルダム大学への入学初年度はプレーせず、2003年から4シーズンでプレーした。オフェンスラインの控えとして貴重な役割を果たし、主にスペシャルチームで活躍した。

ペンシルバニア州のワイオミング・バレー・ウェスト高校時代は、AP通信によりペンシルバニア州のオールスターにディフェンスエンド(2年時)、タイトエンド(3年時)で選出される。3年時は70タックル、13サックと、34回のキャッチで400ヤード、2TDを記録している。



ボブ・モートン (Bob Morton)

ポジション: オフェンスライン (OL)

在学期間: 2002-2006

ノートルダム大学には5年在籍。2005年にはオフェンスの1試合平均36.7得点、477.3ヤード獲得に貢献。ランニングバックのダリウス・ウォーカーやジュリアス・ジョーンズの活躍を支えた。

テキサス州のマッキネー高校では、USAトゥデイ紙により、オフェンスラインとして高校生のオールアメリカン第2チームに選ばれた。またシカゴ・タイムズ紙からは、全米98番目のプレーヤーにランクされた。

グREG・ポーリー (Greg Pauly)

ポジション: ディフェンスタックル (DT)

在学期間: 2000-2004

2000年から2004年までノートルダム大学に在学。入学初年度は夏のオールスター戦で膝を怪我したため出場せず、5年目も登録が認められディフェンスラインとして活躍した。

5年目は12試合でスターターを務め、37タックル、1サックを記録する。4年時は20タックル、2サックを決め、ボストンカレッジ戦ではそのシーズン米国のリーディング・ラッシャーとなったデリック・ナイトをわずか23キャリアで43ヤードのランに押さえ込んだ。

ティム・ルディー (Tim Ruddy)

ポジション: センター (C)

在学期間: 1990-1993

1990年から1993年までノートルダム大学に在籍。4年連続でレターマン(優秀スポーツ選手賞)を受賞し、2年間スターターとしてプレーした。ザ・フットボール・ニュース誌およびAP通信より、オールアメリカンの第2チーム、独立校選抜に選出されている。

1994年のNFLドラフトでは、マイアミ・ドルフィンズより第2巡目指名を受け入団。156試合出場の内、140ゲームに先発出場した(スターターでなかった16試合は入団初年度)。キャリアの大半はダン・マリーノのセンターを務めた。2001年にはプロボウルに選出される。ドルフィンズのセンターとしてプロボウルに選出されたのは、殿堂入りしたドワイト・スティープンソン以来の荣誉である。キャリアの最後の数年は膝の怪我に悩まされ、試合での活躍も限られた。

フランク・スタムス (Frank Stams)

ポジション: ディフェンスエンド (DE)

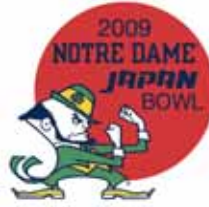
在学期間: 1984-1988

入学時はフルバックとしてプレーしたが、途中からディフェンスエンドに転向しオールスターに選出されるほどに才能が開花。ルー・ホルツ・ヘッドコーチの下、1988年の全米王者に貢献し、オールアメリカンにも選出された。

1986年は怪我で欠場となるが、在学5年目のシーズンではディフェンスエンドとして全12ゲームに先発出場を果たした。ウェストバージニア大学に勝利したフィエスタボウルにおいては、評判の高かったノートルダム・ディフェンスの中核選手として活躍した。

1989年にドラフト第2巡指名でロサンゼルス・ラムズに入団。その後クリーブランド・ブラウンズ、カンザス・シティ・チーフスにおいて、通算7年NFLでプレーした。

現在はオハイオ州のアクロンに妻と二人の子供とともに在住し、アクロン大学のラジオ局のアナウンサー、およびエバンズ保険代理店のバイス・プレジデントを務める。



トラビス・トーマス(Travis Thomas)

ポジション:ラインバッカー(LB)/ランニングバック(RB)

在学期間:2003-2007

ノートルダムには5年在学。入学当初はランニングバックとスペシャルチームで活躍した。2006年の4年時にスペシャルチームのキャプテンに指名され、同時にラインバッカーに転向。5年時にはチームキャプテンを務めながら、ランニングバックとしてもランによるタッチダウン数でチームトップの成績を残した。

ワシントン高校時代にはスーパープレップ誌のオールアメリカに選出され、2002年にはチームをペンシルバニア州 AA クラス優勝へと導いた。2度 MVP も受賞し、US アーミー・オールアメリカンボウルでは文武両道のアスリートとして表彰された。

トーマスは2008年にクリーブランド・ブラウンズとドラフト外で契約し、トレーニングキャンプに参加した。

シェーン・ウォルトン(Shane Walton)

ポジション:コーナーバック(CB)

在学期間:1999-2002

ノートルダム大学では、コーナーバックとしてすばらしい活躍を見せた。2001年には、フットボール・ニューズ誌によるプレシーズンの独立校選抜への選出を受け、実際にチーム最多の8つのパスカットを記録しそれに応えた。ピッツバーグ大学戦では、初のインターセプトとファンブル誘発を決めた。また海軍士官学校戦では、NBC/シボレー・プレーヤー・オブ・ザ・ゲームを受賞。2002年には7つのインターセプトでチームをリードし、オールアメリカンに選ばれた。

入学初年度はサッカーにおいても、ノートルダム大学のスター選手であった。10ゴールと7つのアシストでチームをリードし、1992年のビル・ランザ以来初めて、1年生ながらチームの得点王に輝いた。

2003年にドラフト5巡目でセントルイス・ラムズに入団したものの、背中の怪我で試合出場の間は限られた。2004年にはピッツバーグ・スティーラーズと契約した。

レイ・ゼラーズ(Ray Zellars)

ポジション:フルバック(FB)

在学期間:1991-1994

1994年に大活躍したランニングバック陣の主要選手。2年生のマーク・エドワーズと二人で絶妙のフルバックコンビを構成し、リンディーズ誌のランキングで全米2位に選ばれる。同年スポーティング・ニュース誌からもフルバックで3位に選ばれ、万能選手としての評判を高めた。シーズン終了後のオールスター戦であるシニアボウルにも出場した。

1995年にニューオリンズ・セインツから、全体44番目のドラフト指名を受け、4年間プレーした。1997年には552ヤード走り4TDを記録。キャリア最高の年となった。

引退後はピッツバーグにある出身校のオリバー高校でコーチとなり、現在はデューク大学でランニングバックコーチを務める。